

平成 20 年（2008 年）の恵山の火山活動

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○2008 年の活動概況

・火口や噴気の状況（図 1～4）

5 月 15 日に現地調査を実施しました。また、1 月 23 日に第一管区海上保安本部の協力により、5 月 2 に北海道開発局の協力により上空からの観測を実施しました。いずれの観測でも、溶岩ドーム西側の X 火口・Y 火口及び周辺の地熱域の状況に変化はありませんでした。

・地震活動（表 1、図 5）

火山性地震は 11 月にややまとまって発生（1 日：49 回、18 日：46 回）したほかは、一日あたり概ね 10 回以下で、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

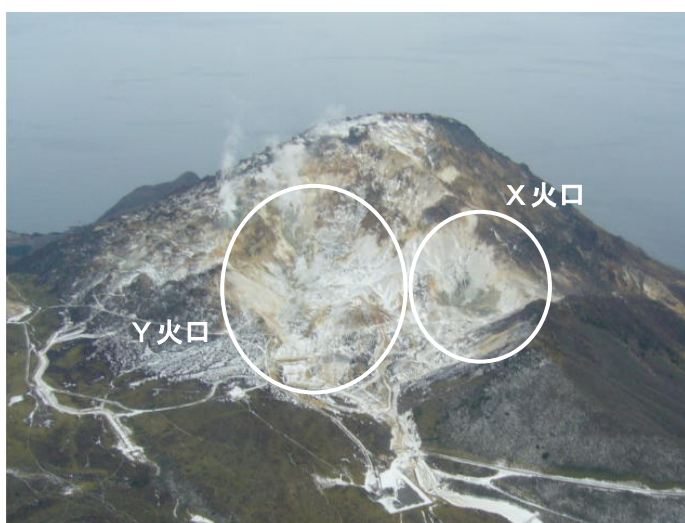


図 1 恵山 山頂溶岩ドーム周辺の状況
(2008 年 1 月 23 日 図 2 の①方向上空より撮影)

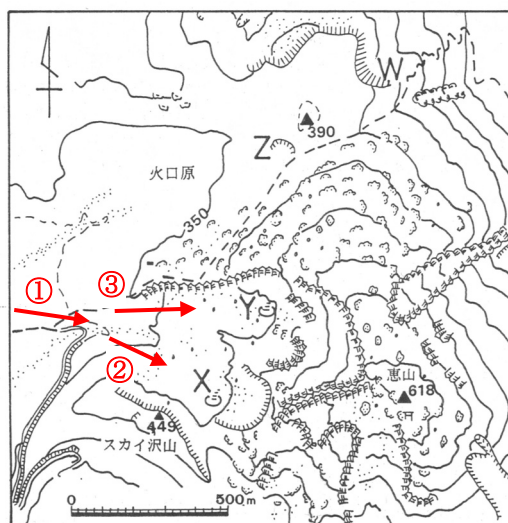


図 2 恵山 山頂周辺図

この資料は札幌管区気象台のホームページ (<http://www.sapporo-jma.go.jp>) や気象庁のホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図については、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用しています (承認番号 平 20 業使、第 385 号)。

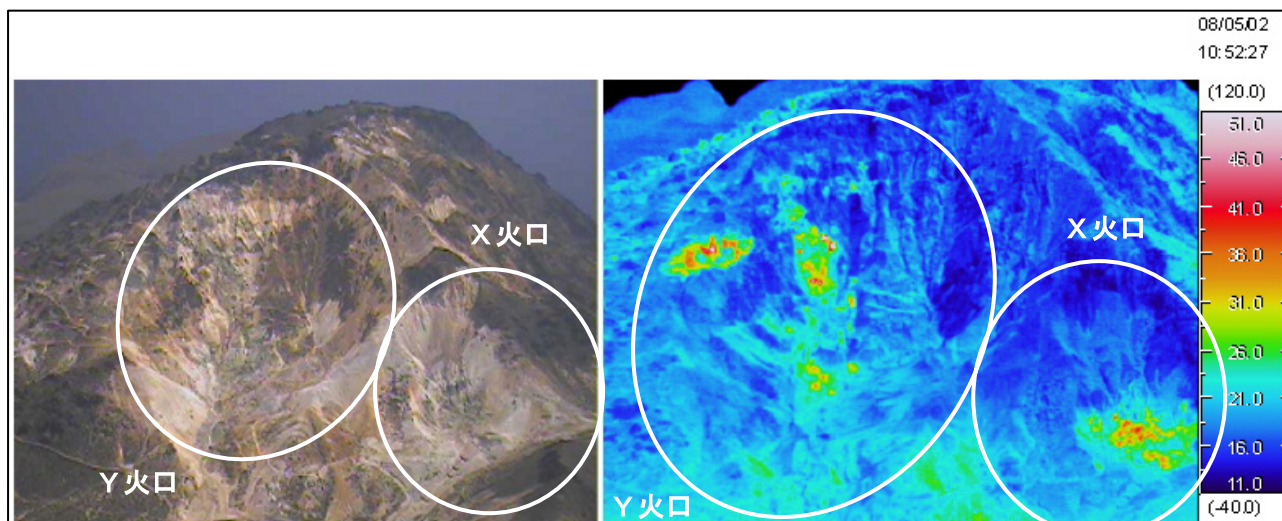


図 3 恵山 赤外熱映像装置¹⁾による X、Y 火口周辺の地表面温度分布
(2008 年 5 月 2 日 図 2 の①方向上空より撮影)



図 4 恵山 現地調査による火口の状況 (2008 年 5 月 15 日)
左 : Y 火口 図 2 の②方向より撮影、 右 : X 火口 図 2 の③方向より撮影)

・溶岩ドーム西側に位置する Y 火口では火口壁上部の数箇所から 30~50m 程度、また火口底からは 10 m 以下の噴気が認められました。X 火口では火口底付近から 10m 以下の噴気が認められました。赤外熱映像装置¹⁾で観測した地熱域の分布は、これまでと比較して特段の変化はありませんでした。

1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

表 1 恵山 地震・微動の月回数 (恵山ドーム北)

2008 年	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
地震回数	24	7	15	6	31	23	26	39	55	83	227	151
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

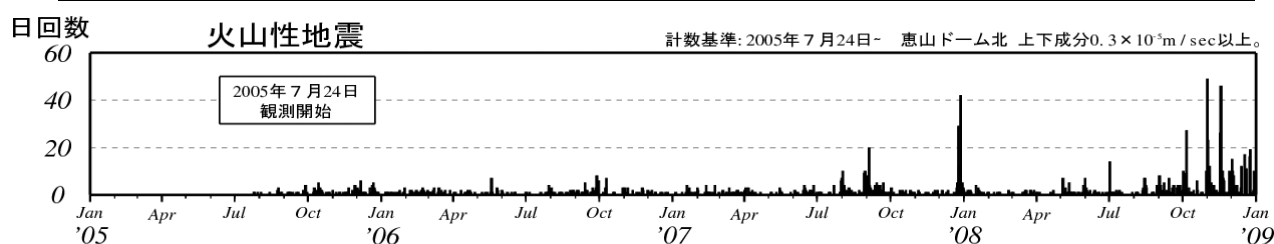
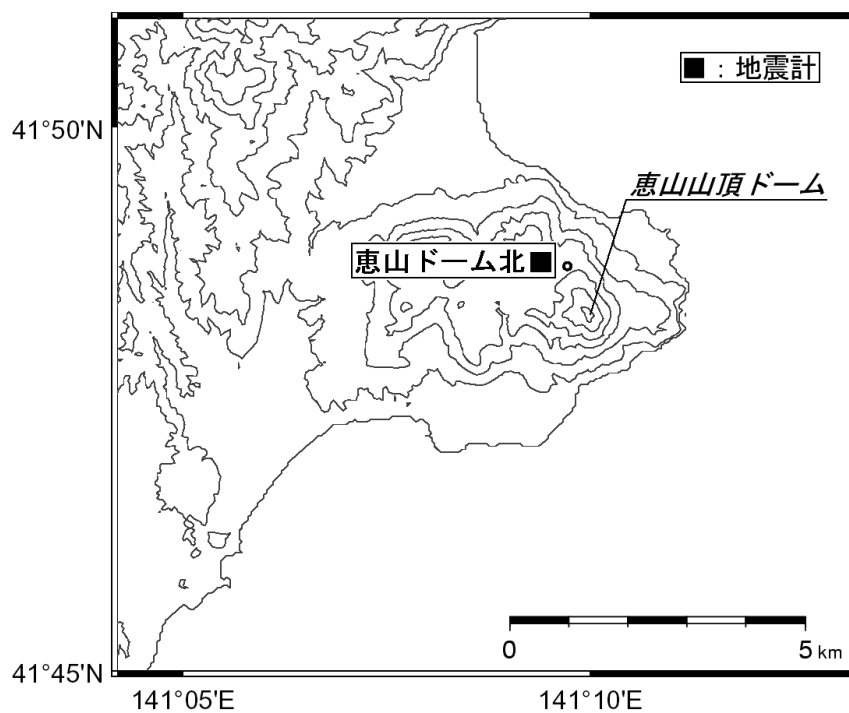


図 5 恵山 日別地震回数 (2005 年 7 月 24 日~2008 年 12 月 31 日)

観測点情報



気象庁観測点一覧表 恵山（緯度・経度は世界測地系）

記号	観測機器	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始年月
			緯度(度分)	経度(度分)	標高(m)		
■	地震計	恵山ドーム北	41 48.7	141 09.7	369	0	2005年7月